

■会長/山田 文雄 ■幹事/小平 直史

◆司会=北川 和彦SAA、合田 敦子副SAA

◆ゲストビジター=篠原敏・諏訪グループガバナー補佐

小尾幸太郎・茅野ロータリークラブIM実行委員長

竹村一男・茅野ロータリークラブIM実行副委員長

◆出席報告

本日	60.75%	20名欠席
前回訂正	66.67%	17名欠席

◆ラッキーナンバー=No. 8 小島拓也君

◆ニコニコボックス=●山田文雄君・小平直史君=篠原敏ガバナー補佐、小尾幸太郎IM実行委員長、竹村一男IM実行副委員長、ようこそお越しくださいました。●小口武男君=篠原ガバナー補佐、本日はよろしくお願ひいたします。●北川和彦君・平林明君・五味武嗣君・川村総一郎君・合田敦子君=篠原敏ガバナー補佐、小尾幸太郎IM実行委員長、竹村一男IM実行副委員長、ようこそ諏訪クラブへ。●岩波寿亮君・玉本広人君・小島拓也君・小針哲郎君・合田敦子君=トライアスロン大会に向けて準備をしております。本日はお時間ありがとうございます。●玉本広人君=結婚記念日にお花を頂き、ありがとうございました。●小島拓也君=ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・山田文雄君=前回例会では四つのテストについての解説と、我々は現在の公式日本語訳四つのテストを大切にしたいというお話をしました。

今日は、引き続いて重めのテーマで恐縮ですが、「シェルドンはなぜ退会したか」というテーマでお話しします。これにより、クラブ計画書にありますロータリーの第2標語「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の、ロータリーでの位置づけがどう変化して来たのかをご理解頂けると幸いです。

アーサー・フレデリック・シェルドンは親睦と相互扶助の団体に過ぎなかった初期のロータリーに、新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱しました。He profits most who serves best (現在とはサーヴィスのスペルが異なります) はシェルドンスクールで教えていた考え方を、そのままロータリーに持ち込んだものです。私自身エレクトの時に、ロータリー関係の資料を集中して読んだ時期がありましたが、その中で、最も印象深く、共感をもった人物が実はシェルドンでした。これがシェルドンの写真です。そのシェルドンは、ロータリーを途中退会しています。以下ロータリー文庫より、源流の会、田中毅PGの記した「シェルドンの実像を追って」の第15章を引用します。長いので、今回は第1回とします。

ポールハリスやチェスレー・ペリーはロータリアンとして一生を終えましたが、シェルドンは1921年以降ロータリーとの関わりを断ち、1930年に退会しています。なぜ退会したのかという理由を巡って、諸説が囁かれています。

まず言える事は、シェルドンは経営学の専門家ならびに教育者であって、彼の頭の中にあるのは、如何に合理的な企業経営をして事業を発展させるかを教える事であり、その他の社会的奉仕活動によって、社会に貢献する事ではなかったことで

す。彼の文献の中からは、職業を通じた奉仕活動以外の、対社会的奉仕活動に関しては一切触れられてはいません。

親睦と会員の物質的相互扶助団体に過ぎなかったロータリーに、新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱したのが、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

シェルドンの奉仕理念は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。即ち自分の事業を経営学の実践だと考えて、継続的に利益をもたらす顧客を確保する方法をいかに編み出すかを説いたのです。もしも対社会奉仕活動をしたかったら、自分が得た適正な利益の中から行えばいいのです。シェルドンの文献を読む限り、この考え方は、彼が初めて経営学の本を出版した1902年から最後の著作1929年まで、一貫して変わっていません。敢えて変わった点を探すとすれば、晩年に「利益を保全する」ことが加わったくらいです。シェルドンスクールは数多くの卒業生を輩出して、修正資本主義が定着するまでのアメリカの産業界の中核として、アメリカ経済を担っていきました。シェルドンから見れば、ロータリアンも数多くの学生の一人に過ぎず、事実上、初期のロータリーで指導的役割を担っていたロータリアンのほとんどは、シェルドンスクールの卒業生でした。親睦と相互扶助という姑息な手段で世渡りをしていた集団に、大勢の卒業生を通じて経営学を学ばせ、実践する事によって、ロータリーを世界的な組織にまで発展させたのです。He profits most who serves best はシェルドンが提唱した哲学や経営学に基づいたモットーです。従って初期の年次大会の主役は当然のことながらシェルドンであり、彼の考え方を聞くために多くのロータリアンが集まって来たのです。シェルドンの言う通りに会社経営をすると、どの会社も大きく業績を伸ばしていきました。

ロータリークラブ連合会の組織の中に Business Method Committee を作って自らその委員長を務め、業種別の小委員会を頻繁に開いて情報交換を行った記録が残っています。1910年代の年次大会議事録には、毎回の様に Business Method Committee からの報告事項が掲載されています。

ところが、別のモットーとしてフランク・コリンズが紹介した Service not self (自分ひとりで儲けを独占してはいけないという意味) に代わって、1920年ころから Service above self というフレーズが使われ始めました。提唱者も、その真意もわからないフレーズです。最近「他人の事を思いやり、他人のために尽くすこと」という注釈がつけられていますが、これはまったく後付けの解釈と言わざるを得ません。その詠み人知らず、正体不明、意味不明のフレーズが、シェルドンのモットーと肩を並べて使われるようになってきたわけです。

さらに言葉遊びが進み、1921年には Service before self などというモットーも生まれました。さらにそれぞれのモットーの持つ意味も徐々に変化しました。自分ひとりで儲けを独占してはいけないという意味だった Service not self が己を犠牲にした奉仕、無私の奉仕に変わり、Service above self は他人の事を思い遣り、他人のために尽くす奉仕という解釈になりました。さらに同じころから、シェルドンのモットーを排斥しようという運動がイギリスを中心に起こってきました。このモットーに含まれる profit (儲け) という単語に対する

拒否反応が直接的な理由でしたが、宗教観や道徳観を敢えて避けて、純粋な経営学として作ったモットーそのものに対する反発が強く起こって来ました。野蛮なアメリカ人だから profit という次元の低い言葉を使っているが、良き伝統と高い倫理観を持っているヨーロッパの人間として、受け入れ難い、次元の低いモットーだという理由でした。

今回は「シェルドンはなぜ退会したか その2」完結編をお話しします。

今日の会長告知は以上とします。

◆**幹事報告・小平直史君**＝①本日の例会は、ガバナー補佐訪問例会です。篠原ガバナー補佐・小尾 IM 実行委員長・竹村同副委員長よろしくお願いします。②本日予定されていましたが上半期会計報告は、3/1の例会に変更になりましたので、よろしくお願いします。

◆**委員会報告・岩波寿亮君**＝第2回スワコエイトピークスミドルトライアスロン大会について、先般、諏訪ロータリークラブの理事

会において、応援頂くことを決定頂きました。玉本広人会員を特別委員会の委員長としてご支援を頂けるとのことで、非常に感謝申し上げます。また、本日、篠原ガバナー補佐もこちらにおいて頂いておりますが、諏訪グループとしても応援頂けるとのことで非常にうれしく思っております。応援といっても、大会当日のご支援、資金的なお願い等がございます。詳細は各担当者からご説明頂きます。本日はありがとうございました。



●**スワコエイトピークスミドルトライアスロン大会・小島拓也事務局長**＝事務局長の小島です。本大会の開催について準備を重ねてまいりました。私からは大会の概要、交通規制等についてご説明いたします。また、当日のボランティアの件については合田会員から、大会のスポンサー契約については小針会員からご説明いたします。皆様のご支援を賜りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

●**玉本広人トライアスロン大会・特別委員長**＝特別委員長を拝命いたしました玉本です。よろしくお願いいたします。今、ご説明頂きましたスポンサーの話、ボランティアの話等を取り纏めすべく、クラブ内の組織づくりをしております。お声がかかりましたら、ご協力の程よろしくお願いいたします。諏訪ロータリークラブは、創立以来、地域の課題についていろいろ取り組んで参っております。その中には諏訪湖浄化、諏訪6市町村の融和が活動の根幹にあったと思います。今回のトライアスロンは、その課題に取り組む事業だと感じております。この活動に諏訪ロータリークラブが関わるべきだと考えております。また、諏訪ロータリークラブの若手を中心となつて、この大会の成功のために頑張つて、苦勞もしております。これに手を差し伸べないのは、ロータリークラブとして意味がないと思っております。諏訪ロータリークラブ全体として応援をしていきたいと思っております。ご理解とご協力、

よろしくお願いいたします。

◆**クラブ協議会（ガバナー補佐訪問）**

●**篠原敏・諏訪グループガバナー補佐**

＝本日は、お招きいただきありがとうございます。今年元日から能登半島で大きな地震がございました。実は去年、当地を訪問する機会があったのですが、建物が古く、かつ風土からか、屋根が重そうな瓦であり、過疎化と高齢化と相まって、「何か災害があったら大変だ」と思っておりました。今回、残念なことに地震災害が発生してしまったのですが、高齢化・過疎化が進んだ土地では、災害の甚大さが把握できず、結果、災害救助のタイミングが遅れてしまったと思われました。この諏訪地方を見たときに、明日は我が身だと思います。少子高齢化、過疎化が進む中で、災害救助の観点から、街づくりをする必要があると感じました。実はわたくしは年男であります。辰年は大きな変化がある年と言われます。その中で今年世界情勢も大きな変化があると思われまふ。皆様におかれましては、十分準備して物事に取り掛かって頂ければと思います。本日はIMについてのご説明、お願いが主な訪問の目的となります。小尾IM実行委員長、竹村副委員長からご説明いたします。よろしくお願いいたします。



●**小尾幸太郎・茅野ロータリークラブ**

**IM実行委員長**＝皆様こんにちは。IMのご案内で6クラブを回らせていただいております。詳細については、竹村副委員長からお話いたします。よろしくお願いいたします。

●**竹村一男・茅野ロータリークラブ IM 実行副委員長**

＝こんにちは。IM実行副委員長の竹村でございます。詳細はお配りしたリーフレットをご覧いただきたいのですが、日時は今月25日（日）、マリオローヤル会館で開催いたします。テーマは、「翔け世界へ 青少年は地域の力」ということで実施いたします。内容と致しましては、会員セミナー、茅野ロータリークラブが普段より取り組んでいる青少年奉仕活動を3つのテーマで活動報告、ディスカッションをおこないたいと思っております。1日有意義な会にしてまいりたいと思っておりますので、皆様のご参加・ご協力、よろしくお願いいたします。



◆**今後の例会日程**

2/26(日)	諏訪グループ インターシティミーティング
3/1(金)	クラブ協議会（上半期会計報告）
3/6(水)	会員セミナー
3/8(金)	休日
3/15(金)	アクト合同例会